

# 感動旅の葉-1（中国・嘉峪関 編）

鈴木隆司 記

”成田発 感動の旅-ing” と題してブログをアップしてきた。その中から、印象的だった写真を旅の葉として綴ります。

## 今回の紀行先： 中国甘肅省・嘉峪関の編

嘉峪関（日本語読：かよくかん）

嘉峪関市にあり、万里の長城に繋がる最西端の関で、明の時代に建設された唯一現存している建造物。ゴビ砂漠に接し、シルクロードの交通要塞であり、そして出発地点でもある。



空港に降り立った。  
何も遮るもの物が無く、地平線に微かに製鉄所が見えた。



嘉峪関市外は、見渡す限りの土漠が広がる。



砂漠の中の街だが、山の雪解け水が湧く湖があり、水に不自由しない。

だが、年間に3日位しか雨が降らないそうで、湿度は10%前後と極端な乾燥気候。

脱水症状に要注意！

嘉峪関全景：関の城壁には一周733mの回廊が走る



一面土漠だけの地で岩石も無く、城壁は日干し煉瓦やもち米の汁で黄土を固めて建設されたのだそうです。



万里の長城は嘉峪関から数百m東方で突然終わる。そこには、幅200m、80mの断崖絶壁をもつ大河“討籟河”があった。馬で移動する北方遊牧民には、流石にこの大河では超えられないだろう。



切り立った絶壁上には長城・最東端の名残りの“第一墩(中国文字:墩)”が見える。



風化して無残な有様の長城。主に黄土を突き固めて建設された性だろう？



再現された長城（懸壁長城）。

北京で見る八達嶺とは比べようもない貧弱な長城だが延々と延びるスケールには感嘆



峰の頂上に設置再現された、見張り&のろし台



遊牧民が渡れないだろう  
大河も、今やジップライン  
やら吊り橋が敷設されて  
容易に渡れる。